

# Book Review



## 根管充填

吉岡隆知 編

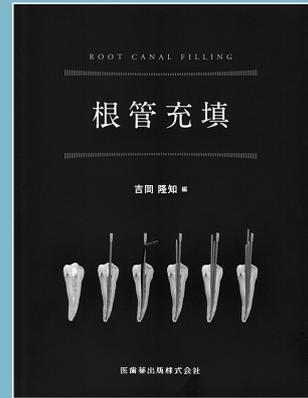


Reviewer

和達礼子 Reiko Wadachi

(東京都・マンダリンデンタルオフィス)

A4 判変, 64 頁  
カラー  
定価 5,500 円  
(本体 5,000 円+税 10%)  
医歯薬出版刊



2021年の東京オリンピックでの日本の体操チームの活躍は素晴らしかった。着地シーンは何度も放映され、見るたびに感嘆した。もちろん着地がすべてなわけではなく、それまでの技、姿勢、構成、あらゆるものが採点されての金メダルだ。そうはいっても、視聴者の頭に残るのは、最後の着地シーンなのだ。

根管充填もしかりである。オーバー、アンダー、疎…根管充填後のデンタルX線写真を見て、私たちは一喜一憂する。そしてそれだけが記録に残る。患者はなおさらだ。術中の顕微鏡の画像でも見せられない限り、根管治療の良し悪しを判断する術は、根管充填後のデンタルX線写真しかない。根管治療の評価は“映え”とばかりに、患者は嬉々として写メに撮って帰る。

最近、新しい根管充填材が次々に出てきている。しかし、学生時代に側方加圧充填法を学んで以降、バージョンアップしていない自分には、どれが

良いのかよくわからない。かと思うと、学生時代に「側方加圧ができていない。シングルポイントになっている」と指導教員に叱られたにもかかわらず、シングルポイント根充としか思えないような方法が、話題になっているのではないか。わけがわからない。歯内治療家に「根管充填材は何が良いのか?」「どの根管充填法がベストなのか?」と尋ねても、「何を詰めるかよりも、根管清掃がどれだけきちんとできているかのほうが重要だよ」と言われて、はぐらかされたような気分になる。

本書は、そのような迷える先生方に、ぜひお勧めしたい。何だかわからない根管充填の世界を網羅的に理解したい先生には、まさにうってつけの本である。編者の吉岡隆知先生は、現在のわが国の歯内治療界において、知識と技術の最高峰と言って間違いない。その吉岡隆知先生の下でみっちりと学ばれた先生方により書かれた各章は一

貫性があり、文献の引用、臨床例の提示、製品の紹介、執筆者の考えのバランスが非常に良い。

この本は薄い。薄いと損をした気がするかもしれない。しかし、この薄さこそが本書の強みだ。分厚い成書を隅から隅まで読み切った人が、どれほどいるだろうか。普段は医院の本棚の飾り、根管充填について調べたいことがあり手にとっても、案外記載が少なかったり内容が古かったりで、残念に思うことが多いものだ。本書は、サッと取り出せ、各根管治療法の具体、選択のポイント、上手くやるコツなど、知りたいことや臨床に役立つ情報が満載だ。それだけでなく、根管充填の変遷やそれぞれのコンセプトを知ってもらいたいという情熱がある。読者の今知りたいことに答えてくれるだけでなく、将来新たな製品が発売されたときにも、宣伝文句に踊らされることなく自ら判断できる力を授けてくれる。何というコスパの良さだ。